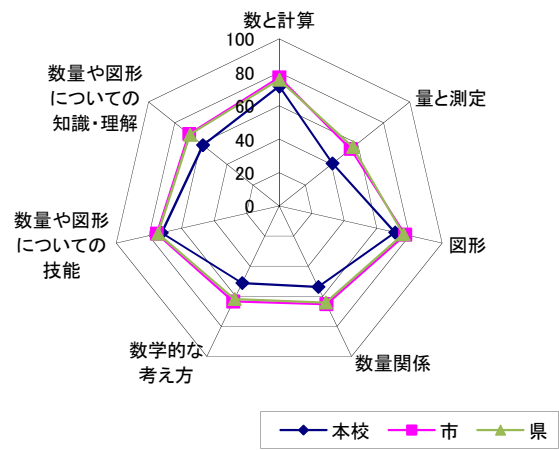


宇都宮市立清原東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.6	77.0	75.6
	量と測定	40.8	54.8	56.5
	図形	71.2	77.4	76.3
	数量関係	53.9	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	51.2	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	72.2	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	58.4	69.1	68.4



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は市平均を下回る。 ○1／100の位までの小数のたし算の正答率は87%を超え、県平均を上回る。 ●3位数÷2位数のわり算の計算や文章問題の立式については理解が不十分な児童も見られる。	・基礎的な計算、特にわり算の計算について、授業での復習や、宿題、自主学習に基礎的な計算の課題を取り入れる。 ・文章問題については、図を描かせたり、求めるものが何かを理解させたりしながら、問題の構造をとらえる力を伸ばし、練習問題に取り組ませる。
量と測定	●平均正答率は市平均を下回る。 ●㎡や㎤の単位の関係についての理解不足や、身近にあるものの面積の推測ができない児童が多くみられる。	・授業の中で長さや面積を体感させるような体験活動を積極的に取り入れ、量感を育むとともに、練習問題や宿題で定着を図る。
図形	●平均正答率は市平均を下回る。 ○ひし形の作図や直方体の展開図については8割程度の児童がよく理解している。 ●四角形の対角線の性質についての理解が不十分な児童が半数近く見られる。	・四角形の対角線はもちろん、平行四辺形や二等辺三角形などの図形の特徴について復習をしたり、作図をさせたりして、知識の定着を図る。
数量関係	●平均正答率は市平均を下回る。 ○8割以上の児童が、表の数の規則性を読み取り、正しく数をあてはめることができた。 ●折れ線グラフや棒グラフの読み取る力が不足している児童が半数近く見られる。	・国語の表現や社会の資料の読み取りの授業と関連させて、グラフを読む力を伸ばすとともに練習問題に読み取る問題を多く取り入れていく。